荒神谷博物館ホール展「戦争から平和を考える」

子どもたちと出雲の戦争



三八式歩兵銃をもつ少年（高嶋家所蔵）

子どもたちはどう生きて、何を体験したのか。

島根の郷土史家 藤岡大拙（ふじおかだいせつ）さんが小学生の質問に答えます。

■期間　11/28(土) - 12/26(土)

■時間　9:00~17:00（入館は 16:30 まで）

■会場　荒神谷博物館ホール　　☆観覧無料

〔〒699-0503 出雲市斐川町神庭 873-8〕

詳細はホームページをご覧ください

講演会
12/19(土)
13:30-15:00

「子どもたちが見た戦争
～藤岡大拙さんが語る出雲の戦争体験～」

語り手 藤岡大拙(荒神谷博物館館長)　聞き手 高嶋敏展（写真家・本企画協力者）

◆会場 荒神谷博物館 交流学習室　◆参加費(資料代) 300 円　◆要予約

お問い合わせ　荒神谷博物館　0853-72-9044

おしえて！ふじおか先生！



「戦争の中で育った子どもたち」

小学生だった藤岡さん。軍事教練のこと、遊びのこと、食事のことなどをお聞きしました。旧制大社中学１年生の時、大社基地の建設で地下壕へ材木運びをしていたそうです。

Q.軍事教練ってどんなこと
Q.当時はどんな遊びをしていたの
Q.戦争中に食べ物はあったの
Q.勤労奉仕ってどんなこと
Q.みんな戦争に勝てると思っていたの



旧大社基地の爆弾庫跡（高嶋敏展撮影）

「子どもたちが見た戦争」

戦時中の地域の様子や、学童疎開で来た子どもたちとの交流のこと、そして戦争に負けたときのことなど、お聞きしました。

Q.戦争が始まったのを覚えていますか
Q.当時の世間の様子はどうでしたか
Q.7 月 28 日の山陰空襲を覚えていますか
Q.学童疎開ってどんなことですか
Q.戦争を振り返って、今、何を思いますか



大阪からの疎開児童の集合写真（藤岡大拙所蔵）



藤岡 大拙（ふじおか だいせつ）　**昭和７年生まれ。94 歳。**

出雲市斐川町在住。郷土史家。出雲の語り部。
荒神谷博物館館長、ＮＰＯ法人出雲学研究所理事長。
戦時中は、出東国民学校、旧制大社中学校に在籍。また自宅のお寺には大阪から疎開した児童たちが滞在し、交流していた思い出がある。

お問い合わせ　荒神谷博物館　0853-72-9044

主　　催　荒神谷博物館
協　　力　出東コミュニティセンター、NPO 法人スサノオの風
特別協力　出東遺族会
企　　画　どこでもミュージアム研究所（高嶋敏展）